

活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

自殺未遂者支援地域連携づくり推進事業
～パーソナリティ障害者対応に関する地域づくり～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

こころの健康推進グループ

代表者：戸田 輝子

勤務先：津島保健所

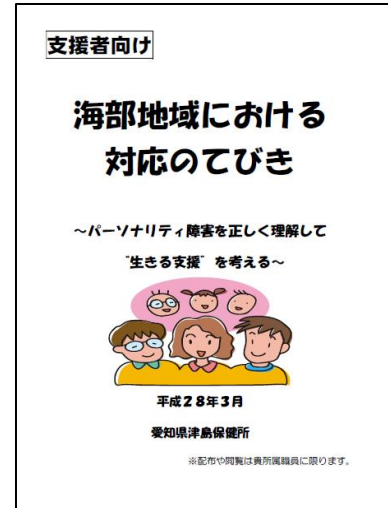
所 属：健康支援課 こころの健康推進グループ

所在地：〒496-0038

愛知県津島市橘町4丁目50-2

TEL：0567-26-4137

FAX：0567-28-6891



◇活動方針

津島保健所管内の海部地域は愛知県西部に位置し7市町村で構成される。管内人口は328,823人、面積は207.70平方キロメートルである。自殺者数は平成22年から26年の5年間で241名、40歳代と70歳代に多く、男女比では10代を除いて男性の割合が高くなっている。

当所における自殺未遂者支援には、自殺の危険性が高まっている本人・家族からの相談や精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づく警察官からの通報における関わりがある。近年これらの中にパーソナリティ障害の方への事例の増加が見られ、平成26年度には申請通報と休日夜間対応件数の約4分の1（25%）を占めるに至った。また、地域の関係者からもパーソナリティ障害と思われる相談者への対応についての助言や疾患を理解するための研修の機会を求める声が強くなったことから、自殺対策の一環としてパーソナリティ障害への対応事業に取り組むこととした。

事業は平成25年度から自殺未遂者支援地域連携づくり推進事業として開始した。パーソナリティ障害の方への対応について①支援者支援・②家族支援・③地域ネットワークづくりの3つの視点から地域の関係者と連携・協働の上で事業を展開してきた。初年度は関係機関における対応の実態と課題を明らかにするとともに、全国的にも数少ないパーソナリティ障害の方の当事者家族のつどいをスタートさせた。さらに2年目からは支援者の基本的な対応の考え方をまとめた手引書を関係者と協働で作成するなど、地域での対応力の向上と関係者間のネットワーク構築を目指した。

活動成果報告書

◇活動内容

平成 27 年度の主な活動内容は以下のとおりである。

(1) 支援者支援

【目的】地域の関係者がパーソナリティ障害を正しく理解し、アセスメント能力等の援助技術の向上を図り相談者が適切な対応ができるようにする。

【内容】パーソナリティ障害対応研修会の開催

日 時	内 容	参加機関、参加者数
第 1 回 平成 27 年 7 月 27 日 (月)	講義：パーソナリティ障害の方への日常支援について 講師：精神科医	市町村、相談支援事業所、精神科病院、警察署、消防署等 (参加者数 44 名)
第 2 回 平成 27 年 11 月 12 日 (木)	講義：パーソナリティ障害の治療とは？事例検討 講師：精神科医	市町村、相談支援事業所、精神科病院、警察署、消防署等 (参加者数 32 名)

(2) 家族支援

【目的】パーソナリティ障害圏の方の家族が、正しい知識や本人への対処方法を学び、家族同士の交流を通じて問題を共有し孤独感や不安の解消を図る。

【内容】感情調整がうまくできない人の家族のつどいの開催

日 時	内 容	参加者数
第 1 回 平成 27 年 6 月 29 日 (月)	ミニ講義、グループワーク	10 家族 14 名
第 2 回 平成 27 年 10 月 29 日 (木)	ミニ講義、グループワーク	5 家族 7 名

(3) 地域ネットワークづくり

【目的】自殺防止とパーソナリティ障害圏の方への対応力向上を目的に、地域において取り組むべき諸施策について協議をするため連携会議を開催する。また、相談支援における対応方法を解説した手引き書を関係者と協働で作成する。

【内容】

① 作業チーム会議の開催

日 時	内 容	参加機関、参加者数
平成 27 年 11 月 12 日 (木)	手引き書 (案) の検討	精神科医師、市町村保健師、相談支援事業所、警察署、消防署等 9 名

② 自殺未遂者支援連携会議の開催

日 時	内 容	参加機関、参加者数
平成 28 年 2 月 18 日 (木)	事業報告、手引き書 (案) について	精神科医師、市町村保健師、相談支援事業所、警察署、消防署等

活動成果報告書

◇成果

(1) 支援者支援

精神科医師による講義と事例検討を行い、障害の理解と緊急時の対応方法について周知ができた。また、事例検討を行ったことで関係機関の役割についての相互理解が進み、その後の連携がスムーズになった。

(2) 家族支援

家族のつどいは、クローズドの会として運営した。勸奨方法は保健所に相談等があった事例から選定し案内した。また、参加者にはつどい参加後も職員が面接や電話等により当事者や家族の悩みの変化を確認するなどフォローアップを行った。つどいへの参加により「本人と距離がとれるようになった」「暴力などが減って、本人が落ち着いてきた」など本人家族の変容が確認できた事例も複数見られた。

(3) 地域ネットワークづくり

支援者向けの手引き書として、200部作成した。作業チーム会議では、関係者各々の視点から積極的な意見が出され各機関の役割を追加することができた。またネットワーク会議には医療機関、警察署、消防署、相談支援事業所、市役所など複数の機関の参加により幅広い立場からの意見交換ができ、自殺未遂者支援のネットワーク構築に繋がった。

手引き書の内容

- 第1章 てびき作成の目的
- 第2章 パーソナリティ障害とはどんな病気？
(4コママンガあり)
- 第3章 パーソナリティ障害の治療
- 第4章 支援の実際
- 第5章 支援のポイント
- 第6章 関係機関の役割

◇今後の計画

- (1) 「支援者向け手引き書」の印刷及び配布により、関係者に周知と活用を呼びかけていく。
- (2) 自殺未遂者支援連携会議を開催して、更なる地域の連携構築に努める。
- (3) 当事者家族のつどいを継続的に開催し、家族の対応力を高めていく。
- (4) 事例検討会や精神科医師による相談を積極的に活用し、支援者支援を継続していく。
- (5) HP や広報誌等により、自殺予防やこころの健康に関する啓発活動を行う。